

<http://www.sutenekoboushikai.com>

猫のトイレはどこでしょう?

ネコもどこかで排泄しています。ご近所の迷惑にならない様に、私たちが手助けしてやりましょう。

1

植込みに
落ち葉を



↑
トイレット
ペーパー

◆不妊手術後は、尿のニオイが
ぐっと少なくなります。
オスネコの、かけションもなくなります。

<http://www.sutenekoboushikai.com>

2

3

毎日、エサやりで苦労している人は大勢いますが
やり方次第では、かえってネコを不幸にしてしまいます。

★ トラブルをなくし、本当の「ネコの幸せ」を考えて、行動しましょう。

食べきれなくて残ったエサで汚い。

↓

エサやりの場所は
いつもきれいに片づける

仔ネコがどんどん増えると、
世話がしきれなくなる。

↓

徐々に馴らして捕まえ
不妊手術を
受けさせる。

★ケージを使った捕まえ方は、ご相談ください。

近所から苦情やイヤがらせが出て
エサもやれなくなつた。

↓

回りの人には、自分から明るく挨拶し、
日頃から気持ちの良い関係を作る。

日本捨猫防止会 TEL 03-3472-8185 ・ 神奈川捨猫防止会 TEL 045-782-8575

平成 4 年作の B 5 サイズ両面印刷：ご希望の方は事務局へお申し込み下さい。

「殺処分ゼロ」の周辺
神奈川区における TNR の検証
秋のイベント

P 2 ~ 3
P 3
P 4 ~ 6

|| お便り P 7 ~ 8
|| 町の中で P 9
|| 事務局より P 10 ~ P 12

殺処分ゼロの周辺

引き取り拒否は動物を救うのか？

アニマルウェルフェア推進ネットワーク 多田和恵

昨今、ペットの「殺処分ゼロ」運動が盛んです。芸能人の団体立ち上げなどもあり、犬猫に無縁な人々もこの問題を目にする機会が増えてきました。殺処分ゼロはペットを想うすべての人々の願いですが、拙速な殺処分ゼロ運動は意に反して動物に苦しみを与えかねないため、その具体的な方策には熟慮が必要です。

先般の動愛法改正によって、終生飼養の飼い主責任が明記され、自治体は高齢や病気を理由とした犬猫の引き取りを拒否することが可能になりました。確かに引き取り拒否は殺処分数減少に直結しますが、その後の動物たちの行方まで想像する人がどれだけいるでしょうか。

現状を知らない人たちにとっては、「殺処分ゼロ」という言葉は非常に魅力的で実現可能と映るようですが、最近そういった声に押されて、引き取り拒否だけではなく、現場で放置を示唆するような言動をとる自治体もあることは、動物福祉的にも見逃すことはできません。

私たちは 20 年以上にわたり、様々な動物関係の相談を受けてきましたが、中でも最も多い「飼えなくなった」という相談に対しては、正直ほとんど無力でした。初めから「もう飼うつもりがない」ことを前提に相談してくる人たちに終生飼養をいくら訴えても、結局は「飼えない」のです。

人間の子どもに対する虐待と動物虐待の構

造には多くの共通点があり、自治体での引き取り拒否は、動物の遺棄・虐待・致死につながる危険性を常にはらんでいます。厄介ものとなった動物が、児童相談所の判断が甘く、保護しなかった子どもと似たような結末をたどることは想像に難くありません。

自治体の引き取り拒否を求める人たちの多くは、説得や叱責により、飼い主が改心すると信じているようですが、引き取りを拒まれた動物たちを待っているのは、多くは遺棄やネグレクトであり、それは安楽殺より酷い運命であると言えるのではないのでしょうか。長い人生のうちには、病気や経済問題等、不測の事態も起こり得ます。飼い続けられない事態に陥り引き取りを求めてくる人に終生飼養を強制するには、あまりに酷な場合もあるでしょう。

追跡調査に時間や労力を割くことなどできない自治体の実情を考えれば、殺処分数のみを問題視する今の日本の「殺処分ゼロ」運動には、強い危機感を持たざるを得ません。最近日本でも盛んに紹介されるようになったティアハイムにおいても、ある日本人関係者に引き取りに関する質問をしたところ、「ティアハイムでは基本的にすべて引き取る。飼い主に説教はするが、引き取らなければ動物はアンダーグラウンドに潜るだけだから」という返答があり、やはり闇から闇に消える動物たちを憂慮していることがよくわかりました。

では、日本でも、飼育放棄や自治体から

引き取り拒否された動物をすべて引き取るノーキルシェルター（所謂ティアハイム）を作れば問題が解決するのでしょうか？ もちろん、名実ともに動物福祉に配慮された素晴らしい施設であれば、救われる動物達は確実に増えるでしょう。しかし、寄付の習慣もなく、ペットショップは乱立し、かつ、殺処分ゼロを目指す上で基本中の基本である不妊去勢手術が徹底されていない日本において、いくらシェルターを作ったとしても、それは新たな捨て場を提供するだけであり、いずれ維持困難に陥ることは容易に想像できます。シェルター建設で問題を解決するには、あまりにも動物の数が多過ぎるのです。

たとえ時間はかかっても、繁殖制限を柱とした適正飼養や適正譲渡、さらには生体販売の禁止等が徹底・維持されれば、殺処分数は自然と減少し、真に不幸な動物も減っていきます。引き取り拒否や安易な譲渡といった強引な方法で数字上の「殺処分ゼロ」を目指すことが本当に動物を救うことになるのか、響きのよいスローガンに流されることなく、今一度立ち止まり、考えてみるべきではないでしょうか。

アニマルウェルフェア推進ネットワークは 1990 年より不妊去勢手術の普及啓蒙活動を続けている「不幸な犬猫をなくすネットワーク」の中に、不妊手術に加えて、動物福祉に重点をおいた活動を推進するためのグループです。この文章は、同会のご了承をいただいて、転載いたしました。

地域猫 現地調査報告

横浜市神奈川区生活衛生課・神奈川県動物愛護協会・麻布大学の 3 者による地域猫の現地調査の結果が発表されました。

平成 10 年から 12 年にかけて、同区内の 8 地域で個体数調査の結果をみると、同地区別の個体群密度は「住居地域」が 1 m²当たり 400 ～ 2000 匹、「商業及び住居・商業地域」と「工業・商業地域」が 200 ～ 700 匹、「農業地域」が 0 ～ 100 匹であった。横浜での用地区分毎の結果を、それぞれの地域における生息環境の視点で比較してみると、同市の住居地域の個体群密度はイタリアのローマ市とほぼ同等であった。

ローマ市では TNR プログラムの実施を条件にノラネコを保護している。従って、現代のイエネコの繁殖成功はヒトの生活環境から提供される資源と保護に深く根ざしていると言える。

町の中で特定の飼主がいない猫を捕獲し、不妊・去勢手術を施して、元の場所に戻すことで、猫によるトラブルを減らし、人と猫が共生できる地域社会の実現を目指す活動が、Trap-Neuter-Return の頭文字をとって TNR 活動と呼ばれています。

- ★不妊・去勢率を高めることで、地域に生息する野良猫の数を安定させることができる。
- ★去勢することで雄猫の行動範囲は狭くなる → 糞尿等による生活被害や感染症のリスクを減らすことができる。

資料提供：

ネコの愛護管理学入門・麻布大学 植竹勝治

- 9/23(祝・火) 動物愛護フェスタよこはま 2014
横浜市 山下公園 参加者 7名
- 9/23(祝・火) 動物フェアかわさき 2014
川崎駅 スタジオゼリア 参加者 4名
- 9/28(日) 動物愛護フェスティバル in 横須賀
三笠公園 参加者 6名
- 10/5(日) 動物フェスティバル神奈川 2014 in 西湘
小田原アリーナ 参加者 6名
- 10/18(土) 金沢まつり 2014「いきいきフェスタ」
横浜市金沢区「海の公園」 参加者 3名
- 11/3(土) 青葉区民まつり
横浜市青葉区市役所周辺 参加者 6名

動物フェスタ横浜 2014

～ペットとの同行避難～

9/23(祝) 山下公園

「人と動物との共生を推進するよこはま協議会」と「横浜市健康福祉局」の主催で、山下公園おまつり広場で開催されました。

今年は風も日差しも穏やかな小春日和の1日でした。会場では災害時のペットとの同行避難に備え、飼主とペットがトンネルや障害物のコースを歩く「災害時避難体験」や「避難所でのハウストレーニング」、火災時の煙を再現した「煙ハウス体験」、災害救助犬によるデモンストレーションなどが行われました。また、横浜市獣医師会の先生による健康相談や獣医師体験などもあり、獣医師さんをより身近に感じる良い機会でした。

神奈川捨猫防止会は日本動物福祉協会横

浜支部、神奈川動物ボランティア連絡会とテントを並べ、各ブースは、ペットに対する確かな知識と共生のあり方について知ってもらおうと工夫を凝らしていました。

昨年と違って、強風の通らない場所でしたので、説明パネルや生活用品も十分展示することができました。

私たちのブースではアンケートを介して、猫の飼い方や、地域猫との関わり方の相談に対応しました。

今回はスタンプリナーにも参加し、昨年よりも沢山の方に立寄っていただくことができました。

今回、サバイバルバックは猫の同行避難グッズとして人気があり、作り方のプリントが足りなくなるほどでした。

今後も同行避難時に必要な情報を多く発信していきたいと思います。

参加者：太田、芝崎、林田、橋詰、藤村
松尾、松村



(芝崎 記)

川崎市動物愛護フェア 2014

9/23 (祝) JR川崎駅アゼリア

アンケートに「飼い猫 12 匹」と記載した女性・・・勤務先に多数の猫がいて、触れる猫は捕獲・不妊したけどリリース（元の場所に戻す）せずに自分で飼っている。外暮らしの猫はまだいるが全ては飼えないし、地域の理解も得られない、と絶望状態。行政や愛護ボランティアを紹介しましたが、当然ながら決定的な解決策はありません。それでも「相談できてよかった」と。

2才の猫を飼っている女性はどう見ても高齢者。失礼を承知で「もしもアナタに何かあったら？」・・・「そうならないように頑張ります」。頑張っただうにかなる問題ではないので“動物のために遺言を残そう”のグループを紹介しました。

「猫、タダでもらえるの？」・・・こちらもどう見てもお若くはない。「子猫と決めつけなくて中年猫も対象にしては？」・・・「そうなのよ。年を考えると子猫は無理なのよね～アリガトね」。更には「愛護さんに行けばタダで不妊してくれるの？」・・・自分は餌をやる優しい人＝不妊費用は愛護団体が出すのよね？の感覚。

いろんな人との出会いがありました。当日は会員の一人が突然の体調不良で参加不可になり、もう一人はなんと、飼い猫脱走!!のハプニング続き。人手は多いに限ると実感しました。

来年は宮前区で開催予定だそうです。

会員の方は短時間でも結構なので、是非ご参加、ご協力をお願いいたします。

(中曽根 記)

参加者：太田、清水、長澤、中曽根

動物フェスティバルよこすか 2014

9/28 (日) 横須賀 三笠公園

海に隣接する三笠公園、今年は例年以上に海風が強く、テントが飛ばされそうで、パネル等が思うように貼れなかったのは残念でした。でも、今年もにゃんずネット横須賀の6匹の子猫の譲渡会も同じテントでやっています、たくさんの方々と猫のお話ことができました。

一番多いのはノラ猫問題。「外猫の不妊手術をしたいが、触れない猫なので捕まえられない」との相談には、会場で展示していた捕獲器の実物を使って、捕獲のステップを説明しました。

私たちの手に負えない難しい相談はなく、ほっとした1日でした。(増井 記)

参加者：石倉、遠藤、岡崎、北沢、

古屋、増井

金沢まつり「いきいきフェスタ」

10/18(土) 横浜市金沢区 海の公園

例年、参加しているこのフェスタ、農産物ほか、さまざまな店やフリーマーケット、パレードや各種のイベント、更に長寿動物飼育者の表彰もあり、すっきり晴れ渡って風も穏やかなこの上ない天候に人出も多く、大いに賑わいました。

私たちのブースには迷子猫に関わる相談があったり、手作り品を届けて下さる方がいらっしやったり、思いがけない高額の寄付をいただいたりと、盛り上がりました。

この催しに参加して、会として展示をスマートに速やかに出来るように備品の充実が必要と痛感しました。

そうすることで、より一層催事に参加し活動しやすくなると考えました。(林田 記)

参加者：大谷、林田、松尾

動物フェスティバル神奈川 2014 in 西湘

10/5(日) 小田原アリーナ

このイベントは神奈川県及び神奈川県獣医師会が中心となって、県の各地域を持回りで開催する動物フェスティバルで、今年は西湘地区(小田原市、南足柄市及び周辺の各町)主催となりました。

冷たい秋雨が降りしきる中、最寄駅の蛭田から会場まではびしょ濡れになりましたが、幸い、小田原アリーナの体育館内にブースが設置されていたので、天候にわずらわされずに「猫との暮らしを考える」のブースで、来訪者と応対することができました。この動物フェスティバルでは18歳以上の長寿猫・犬の飼主を県で表彰する式典があります。式典に参加される方々が、私たちのブースに立寄って、長生きしている猫や犬のことを嬉しそうに話してくださり、会話がはずみました。

激しい雨で、聴導犬のデモンストレーションなど、外のイベントは中止で、表彰式の後、午後の来場者は少なく、残念なイベントになりました。(吉田 記)

参加者：五十嵐、大谷、豊永、橋詰、藤村、吉田

2014 年 秋 アンケート集計表

防止会のテントを訪れてくださる方々に「猫との暮らしを考えるアンケート」を記入していただき、その回答を話題にして参加者と動物愛護の会話をはずませています。

	川崎市 アゼリア	横浜市 山下公園	小田原 アリーナ	横浜市 金沢区
実施日	9/23	9/23	10/5	10/18
回答数	51件	71件	51件	39件
猫を飼っている	33	32	48	34
不妊手術済	29	22	44	28
外猫の世話	25	20	34	26
ひとり・家族で	19	10	20	25
グループで	6	6	6	2
ひとり・グループ	0	1	1	
餌の時間				
早朝	6	6	12	8
午前中	3	6	12	7
昼間	5	2	5	1
夕方	7	6	10	10
夜	7	3	13	10
外猫への不妊手術				
していない		17	13	9
メスのみ	3	4	4	8
オスのみ	2	0	3	1
メス・オス両方	3	8	8	8

青葉区民まつり

11/3(祝) 青葉区役所周辺

今年も晴天に恵まれました。地元の「青葉区猫との暮らしを考える協議会」は活動資金作りのバザーに参加。当会は沢山のパネルや猫の冬用ハウス、TNR用捕獲箱、ジープン利用の猫お出かけ袋など、生活に密着したグッズを展示して、皆さんの関心を惹き、猫との暮らしの相談や高齢者の方々とのお相手をして、猫との上手な接し方を伝えることができました。(太田 記)

今年のメインテーマは 地球の絆 輝け未来へ 20th のAOBA

昨年同様、オリジナルグッズをはじめ、ビーズのストラップや貝のペンダントを盛り込んだ駄菓子カップを子供向けに販売した。来年も外猫ちゃん達の手術費用作りのために、目玉商品になる物をしっかり準備したい。(清水 記)



“ネコのとび出し注意！ポスター”

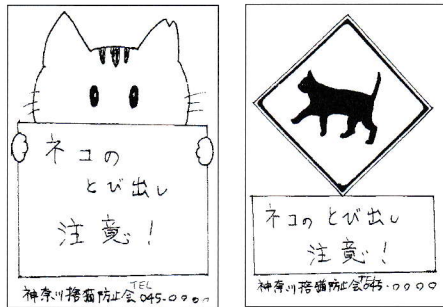
小田原市のKさんより、捕まらない猫をなんとか捕獲して、去勢手術を受けさせてやりたいとの相談がありました。

Kさん宅に伺うと、とても広い庭で、猫達がぞろぞろと出迎えてくれました。庭の奥には大きな猫トイレが設置されていました。

今日はまだ来ていない大きいオスを捕まえないとのこと。早速、捕獲器を仕掛けて見張っていると、近所の方々や工事の人が興味深げに見ていましたので、笑い話を交えながら、いきさつをさらりと説明しました。皆さん、感度の良い方々でしたが、TNRを知らないことを感じました。

Kさんから、自宅の前の道が車の抜け道になっているので、何匹もの猫が撥ねられているので、「これ以上事故が起こらないように“猫の飛び出し注意”のポスターを作ってもらえないだろうか」と持ちかけられました。

近所の方々との交流で、この周辺の感度の良さも分りましたので、KSBの連絡先を入れたポスターを作成する運びとなりました。



後日、Kさんから「車は徐行してくれるようになったが、幼い猫は何匹か撥ねられている」とのこと。運転する人に、少しでも注意が喚起されることを願っています。

(橋詰ひとみ)

ビフォー・アフター 白猫レオンの場合

私の住む江東区は町の7割が集合住宅です。古い民家の跡地には、必ず高層の建物が建ちます。

7月の猛暑の日、私の住むマンション横の広い駐車場で、白い猫がガリガリに痩せ細り、フラフラ歩いていました。目をそむける人もいるほど哀れでした。強い白黒のボス猫にいつも狙われていて、全身傷だらけ、実に無残な姿に、なんとか保護しよう！と決意。でも、白猫は警戒心がとても強く、地域の方々の応援で、1ヵ月ほどエサやりを続けて捕獲を試みましたが、すべて失敗。そんな折、捨猫防止会を知り相談したところ、捕獲箱と小ケージを貸していただき、見事、その夜、捕獲できました。3日後、紹介された病院でオスとわかりましたが、既に去勢済でした。以前は飼猫だったようです。あれから2ヵ月、今では礼音（レオン）と名付け、すっかり我家のペットになりました。

あのボス猫も、いつの間にか耳カットがしてあって、すっかりおとなしくなっています。

防止会の方々のお蔭で、地域の環境がすっかり変わりました。心からお礼申し上げます。

(東京都 大島弘子)



捕獲前



2ヵ月後

原発事故と犬猫救済

東京電力福島原発の大量の放射性物質放出による惨事によって、周辺住民は直ちに避難させられましたが、動物たちは取残され、やがて、政府によって避難指示区域は警戒区域(立入禁止)とされ、誰も入れなくなりました。

事故直後から避難指示区域・警戒区域に残された動物、特に犬・猫が心配でした。そのため、立入禁止のバリケードから中に入って犬猫を保護し、給餌していました。半径 20 キロ圏内の警戒区域は誰もいなくて、まさに死の世界でした。その中を飼主さんの情報を頼りに、小高・原町地区の約 60 軒の飼主さんの家を取り回り、給餌・給水していました。

事故後 3 カ月位まで、沢山の動物救援隊の人が入ってくれば助かった犬猫は多かったと思います。特に犬は各家で繋がれたまま、亡くなっていました。犬の飼主は避難所にいましたが助けようとしていなかったのは、不思議な気がしました。

警戒区域では、中に入るの禁止ですから警察官は怖かったです。見つかって何度も捕まりましたが、その後も、また何度も入って犬猫救済をやっていました。

大震災と原発事故から 3 年半過ぎましたが、今も猫に隔週、給餌・給水をしています。犬は見かけません。ねこ餌場のエサもカラスや野生動物に食われないよう、エサの置き場を高くしたり、カラス除けに大きいシートを貼ったり、また家主さんの協力で物置や小屋に置いたり、いろいろ工夫しています。

小高・原町地区では、2012 年秋から、白河市のスペイクリニックで猫の不妊・去勢手術をして、捕まえた場所にもどす TNR 活動をやっています。今まで 300 匹以上の猫を手術して、元に戻しています。

今も約 600 箇所の餌場で給餌・給水を続けています。最近では、エサの援助や義捐金が少なくなり、活動を続けることが難しくなってきました。皆様方の温かいご支援・ご協力を、お願い申し上げます。

(南相馬市 吉田美恵子)

<エサ送付先>

975-0007 南相馬市原町区南町 3-6 3-2
吉田美恵子

<義捐金>

日本捨猫防止会

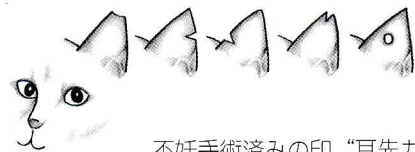
郵便振込口座 00150-6-82305

にお振込み下さい。その際、振込用紙に必ず「南相馬市の猫支援」とご記入下さい。



不妊去勢手術済 耳先カット

横浜市では今年度も不妊去勢手術した猫に対し、上限 5 千円の補助金が出ます。今回の申請時には対象猫の写真が必須で「飼い主のいない猫」については、手術前と手術後の耳先カット済の写真が必要です。この方法は、かなり以前から手術済の目印として行われています。多くのボランティアの人達が何日もかけて捕獲した猫が、既に手術済だったという経験を持っています。耳先カットされた猫は再度捕獲されることもなく、地域の人達にも手術済であることを伝えられる、とても有効な方法です。「耳先カット」が全国に認識され、広まって行くことを期待しています。



不妊手術済みの印「耳先カット」

地域猫活動を推進するために

ようやく社会に認知されるようになった地域猫対策の発展のために、各自治体の動物関係機関の力を活用されることをお勧めします。

私の住む神奈川県では、市町村に動物担当課・係があります。お住まいの地域の猫問題担当の窓口で電話し、動物適正飼育推進員の紹介をお願いしてみても如何でしょうか。

推進員は、県・市内の動物関係団体から推薦された方々ですから、行政窓口の担当者よりも実践的な知識や経験が豊かですので、情報量も多いと思います。個人的に動くよりも、推進員を介して、行政への支援を求めるメリットもあります。例えば、自治会単位で猫対策を進めようとした時、説明の段で市の担当係長が出席して説明があったお蔭で、活動がとてもスムーズに進んだことがありました。

昨年 9 月の動物愛護法の一部改正で、次の事項が追加されました。

第 5 猫の飼養及び保管に関する基準

6 項

飼い主のいない猫を管理する場合には、不妊去勢手術を施して、周辺の住民の十分な理解の下に、給餌及び給水、排せつ物の適正な処理等を行う地域猫対策など、周辺の生活環境及び引取り数の削減に配慮した管理を実施するよう努めること。

やさしさだけで猫をかまう人や、地域社会のつながりに全く無関心な人が多くなった昨今、周辺住民に配慮して猫と接することが、地域の調和を保っていくことになるでしょう。

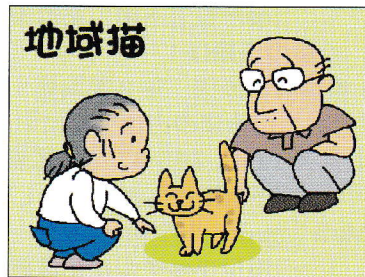
ウェブで「町会長のための野良猫講座」を検索してみてください。獣医師の荒川先生が野良猫問題、地域猫への対応を楽しいイラストと共に、詳しく解説されています。地域の猫問題に関心がある行政の方々や獣医師先生にも広く読まれています。

<http://www.geocities.jp/noranekogaku/choukaichou/choukai1.html>

人間の勝手に捨てられた猫に、同じ人間として、なんとか救いの手を差し伸べたい、そういう人々によって、地域猫活動が広まって来ました。地域猫は周辺住民との協調が基盤です。地域猫活動を進めるには、外猫のいる周辺の皆様の協力・支援が必要です。

動物愛護活動の推進に、各自治体の動物関係機関の協力を得ることをお勧めします。

(太田成江)



神奈川捨猫防止会 新体制

昨年の会報で、今後の神奈川捨猫防止会（以下K S Bという）の運営に関する懇談会の概要を報告いたしました。今年1月より、会員有志にて、K S Bの新しい体制を討議してまいりました。

従来、K S Bの運営は太田会長に全面的に頼ってきておりましたが、太田会長がご高齢になられたこと、また、ご家族の介護等で、K S Bのために十分な時間が取れなくなったことで、新体制にて作業を分担することになりました。

4回に亘り会議を重ね、K S B運営に関する会則を定め、8月より試行しました。明年（平成27年）1月より会則に基づいた体制で、活動を行ってまいります。

よろしくご支援・ご協力のほど、お願い申し上げます。

<会則の要旨>

- ・事務局：会長の住所
 - ・活動：
 - ・動物愛護活動の推進
 - ・猫の適正飼育の推進
 - ・避妊・去勢手術の推進
 - ・地域の猫との共存を推進
 - ・行政・獣医師会とのコミュニケーション
 - ・会費：年会費3千円、賛助会員1万円
会費が2年間未納の場合は退会と見なす。
 - ・役員：会長1名 副会長2名
会計2名 広報2名
会計監査1名 業務推進4名
役員の任期は1年とする。但し再任可能。
 - ・役員会は原則、年3回開催する。
- 「会則」ご希望の方は下記にお申込み下さい。
F A X ; 042-745-9711 広報担当 吉田
F A X にて送信いたします
Mail ; makiy409@b-star.jp
添付ファイルにて送信いたします

<平成 27 年度の役員>

会長	太田成江	
副会長	橋詰ひとみ	松尾和子
会計	安藤洋子	松村由美子
広報	清水香世子	吉田眞規子
会計監査	芝崎宏美	
業務推進	小林尚子	長澤恵子
	林田久美子	間部裕子

<会計年度>

従来の9月から翌年8月までの会計年度を1月から12月に改めます。

従って、会費は当会報に同封の郵便振込用紙にて、1年分お支払い下さい。

🐾 「動物大好き」の思い出 🐾

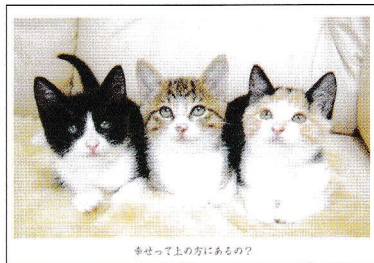
ラミネート版の写真パネル貸出します

小冊子「動物大好き」は昨年の30号をもって終了しました。

何人もの方々から「表紙のカラー写真が可愛らしかった」「写真に添えられたコメントが面白かった」等、惜しむ声も寄せられました。21号から30号までの写真を2回分ずつ並べ、A3サイズにし、ラミネート版のパネル加工のパネルにして6組作成しました。

猫の譲渡会や動物福祉の集まりの時など、壁面の彩りに利用していただけたらと思っています。

ご要望の方は事務局へご連絡下さい。



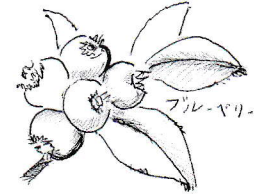
ご寄付のお願い

捨猫防止会は、捨てられる命をなくすために、そして人と猫が幸せに暮らせるように活動を続けています。

相談者への的確な情報提供、不妊・去勢手術費用の補助金活用等、不幸な猫の増加を止めるための活動をこれからも続けていきたいと願っていました。

皆様のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

郵便振替 00210-6-48288 神奈川県捨猫防止会



<事業報告>

1. 不妊手術補助金支給 98 匹 (前年度 102 匹)
2. 会報No. 58 号、防止会ニュースNo. 36 発行
3. 県内 5 カ所にて動物愛護啓発イベントに参加
4. 日本捨猫防止会と共同で
「動物大好き」表紙パネル作成

<電話相談> 303 件

外猫の不妊手術	98 件
(捕獲方法の相談も含む)	
問合せ	58 件
相談	48 件
連絡	43 件
飼い方全般	24 件
貰い手探し	24 件
逃出した猫探し	4 件
猫をほしい	4 件

<事業計画>

- ・不妊手術補助金はがきを会員 1 人に 2 枚送付
会員には補助金はがきの追加申込みに応じます。
- ・会報、ニュース等の発行
- ・県内各地の動物愛護関係イベントに参加
- * 補助金はがき未使用の方は、友人・知人に差し上げて活用して下さい。

会計報告 (H25年9月～26年8月)			
収入		支出	
会費	587,000	手術補助金	330,092
寄付	498,763	事業費	987,113
* 保証金	35,000	通信費	180,109
** 雑収入	1,112,142	印刷費	16,866
		事務用品	22,673
		* 保証金返却	45,105
		雑費	84,725
小計	2,232,905	小計	1,666,683
前期繰越	792,621	前期繰越	1,358,843
合計	3,025,526	合計	3,025,526

* 捕獲器貸出しの保証金

** 雑収入 : 100万円

自宅近くの子猫の交通事故死の多さに心を痛めていた方から不妊手術の普及を願って大口の寄付を頂きました(K・Y基金として活用予定)。

会員数： 170名 (平成26年8月末)

[編集：太田・吉田]

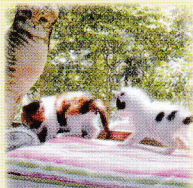
🐾記事に関するお問い合わせは事務局へお願い致します。

捨猫防止会ホームページ <http://www.sutenekoboushikai.com>

小冊子“動物大好き”の思い出のパネル

動物大好き Vol.30

日本捨猫防止会 神奈川捨猫防止会



お母さんのおいするかな



きゅうくつだけど暖かいね



地元の写真展では人気No1でした



もう一匹くらいなら入れるよ!



見て見て!何か始まるよ!



小さい頃からずっと一緒



元オス同志でも仲良ししてます



ローアングルで舌の下まで見えました



素材選び×愛情＝満足

キャットウォークなのに
中には渡れない猫もいたりして

室内暮らしも快適に

災害にそなえて

突然の災害で避難しなくてはならないとき、飼っている動物は飼い主と共に避難すること**同行避難**にしている自治体が増えています。普段から移動用キャリーバッグ等に慣らし、家族以外の人や動物とつきあえる**社会性**を身につけさせましょう。

不妊・去勢手術をしておく避難所やシェルターでの性的ストレスを軽減することができます。飼い主の元から離れてしまった場合、野外での繁殖を防止することもできます。

マイクロチップや迷子札の装着など**飼い主の明示**を徹底しましょう。

非常時準備品



10ページに掲載した写真パネルの最終版です。
サイズ：A3判 タテ420センチ×ヨコ297センチ